

計画の位置づけと対象

■計画の位置づけ

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画は、「倉敷市公共サインガイドライン」に基づき、平成19年3月に策定された「倉敷市交通/バリアフリー基本構想」の重点整備地区である倉敷駅周辺地区を対象として、歩行者等の誘導に係るサインの整備を進めるための計画です。



■計画の対象となる範囲

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画では、重点整備地区内において定めた特定経路及び準特定経路を中心に、階次誘導案内施設の整備を行います。



発行 倉敷市
編集 倉敷市建設都市計画部交通政策課
〒710-0565 倉敷市中央東区640番地 TEL086-426-3545 / FAX086-421-1600
URL <http://www.city.kurashiki.okayama.jp/koutsu/index.html>

発行日 平成20年3月

配置・施設整備方針 ～施設の構造・デザインや、配置位置などに関すること

■施設的设计・施工に関すること

○車いす利用者や視力の弱い人が、できるだけ近づいて表示面を見ることのできる構造とします。

○主要な案内サインは、夜間でも利用できるよう照度設備の設置が必要です。

■施設の配置や設置に関すること

○サイン施設は歩行者の円滑な移動を妨げない位置に設置します。

○サインの視認性を高めるために、「インフォメーションマーク」を設置します。

○案内マップは、原則として向かって前方をとして設置します。（下記参照）



○案内マップの縮尺は、求められる用途に合わせた縮尺を設定します。

■施設デザインに関すること

○案内サインは原則として独立板型の構造とします。

○施設デザインは、視認性と調和するシンプルなものとし、同一経路上のサインは統一されたデザイン・色調のものとなります。



表示内容基準 ～案内マップへの記載情報や、名称の表記に関すること

■マップ面表記に関すること

○施設名称等は、必要に応じて省略・簡略化して表記します。ただし、設置する全サインと配布される観光案内地図との表記に一貫性が重要です。

○普通名称は英語表記、固有名称はヘボン式のローマ字表記とします。

■案内マップに関すること

○案内マップに表示する情報は、明確な基準により掲載されることとします。

○だれもが分かりやすい凡例・方位マーク・スケールを記載します。

○表示面以外の見えやすい場所に、所在地の住所及び管理者名・連絡先等を記載します。

倉敷駅周辺誘導案内施設整備計画

概要版



サインの整備方針 ～倉敷市公共サインガイドラインより～

表示デザイン基準 ～表示面のレイアウト、表示の方法などに関すること

■レイアウトに関すること

○遠くからでも認識しやすい媒体として、ゴシック系の書体を使用します。

○文字のサイズは、視距離に合わせたサイズを選択します。やや遠距離から見る誘導サインは、視距離15mと想定し、主要な施設名称の文字サイズは60mmとします。

○だれもが読みやすいことに配慮し、文字や図表示では5以上の傾度差を確保します。また、高齢者の視力低下や色覚/バリアフリーに配慮し、見分けやすい色の組み合わせによる表示が必要です。（下記参照）



○案内マップのレイアウトは、誘導案内に必要な情報をシンプルに表示するデザインとします。

■表示方法に関すること

○言語によらず多様な人に意味を伝えられるよう、ピクトグラム（案内用記号）やマークを積極的に活用します。

○矢印は視認性の高いシンプルなデザインを使用し、だれもが誤解なく理解できる移動方向を表示します。

■表示部の構造に関すること

○車いす利用者や視力の弱い人等に配慮し、表示面の中心は1250mm高さ、案内マップ表示面は1m以内を目安とします。（右図参照）



ユニバーサルデザインや景観への配慮方針 ～倉敷らしい、思いやりの心があるサイン整備に向けて

- 外国人来訪者にとって分かりやすい誘導案内を行うために、凡例の4カ国語表示、ピクトグラムの活用、矢印記号の使い方を配慮します。
- 車いす利用者や歩行者等がサインを利用する機会を考慮し、見やすい距離までの近づきやすさ、設置場所周辺の環境整備、施設的安全性等に配慮します。
- 文字やピクトグラムのサイズや色づかい、表示面の高さ等については、視覚障害者や視力が低下した人に十分配慮します。
- サイン施設は、誘導案内に不要な装飾や過度な装飾は避け、だれもが一目で認識できるように、できるだけシンプルで簡潔に誘導するデザインとします。

計画の目標と整備の考え方

■計画の目標

<h4>バリアフリー基本構想</h4> <p>「ひと、輝くまち 倉敷。」 だれもが安全、快適に移動し、活動できる素晴らしいまちを目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ハードとソフトが連携した交通バリアフリーの推進 ●おもてなしの視点から交通バリアフリーの推進 ●多様な交通手段、サービスが充実した持続可能なまちづくりの推進 ●市民、事業者、行政の協働による交通バリアフリーの推進 	<h4>観光都市としての課題</h4> <ul style="list-style-type: none"> ●観光入り込み客数は減少傾向 ●来訪者の滞在時間が短縮 ●一人あたりの観光消費額が減少傾向 ●観光地の売上額減少 ●アジア観光客の増加 ほか
--	--

観光都市「くらしき」として、ホスピタリティにあふれたサインシステムの実現

- おもてなし・思いやりのあるまちづくり
倉敷をおとすれる様々な立場の人々にとって、必要な情報がらさきしいかたちで提供されることを目指します
- だれもが快適に過ごせるまちづくり
倉敷のまちでの滞在が、より心地よく快適な時間となるように、袋け手にとって満足度が高くなるような情報提供を目指します
- 安全、安心な行動を支えるまちづくり
健康者はもとより、高齢者や障害者の移動がより多様な手法でサポートされるように、きめ細かな配慮による情報提供を目指します

■倉敷駅周辺誘導案内施設の整備方針

<h4>バリアフリー、ユニバーサルデザインの視点を重視したサインデザイン</h4> <ul style="list-style-type: none"> ●文字サイズ、色紙、施設サイズ、高さなどについては、バリアフリーの視点を重視した設計とします ●特に色彩デザインについては、色覚バリアフリーを十分考慮します ●点字や音声案内、多言語案内等についても積極的な導入を検討します
<h4>来訪者の視点による効果的・計画的なサイン配置</h4> <ul style="list-style-type: none"> ●来訪者のニーズを踏まえ、効果的な案内誘導ができるようにサインを配置します ●来訪者が安心して移動できる必要最小限のサインを配置し、不正確なサインや利用者に不具合を与えるような誘導表示等は集約、撤去します
<h4>関係機関等との連携・調整によるサイン整備</h4> <ul style="list-style-type: none"> ●商店街や美観地区では、関連機関と十分調整を図り、景観形成や地域活性化に配慮します ●景観とのバランスを考慮し、シンプルかつ適切なサイズのサインを整備します ●現サインをできるだけ活用した整備を行います ●観光関連機関や民間のサイン、配布用観光案内施設と連携します

サイン配置計画

■サイン配置の基本方針

JR倉敷駅を行動拠点とした重点整備地区での誘導案内は、誘導目的となる施設や拠点に対して、倉敷市交通バリアフリー基本構想における特定経路及び準特定経路を誘導ルートとして設定することを基本方針とします。

- ①倉敷駅から美観地区またはチボリ公園へ行くことを目的とした観光客のため、JR倉敷駅を行動の起点、美観地区と周辺的主要施設、チボリ公園を誘導目的地と設定します。
- ②JR倉敷駅から倉敷中央病院へのルートは、周辺に郵便局や医療福祉施設など、多くの人々が利用する施設が立地していることから、主要施設への誘導が必要ルートとして設定します。
- ③市内外から不特定多数の人が訪れる倉敷市民会館と倉敷市立文庫は、美観地区への誘導ルートから連続して誘導するルートを設定します。

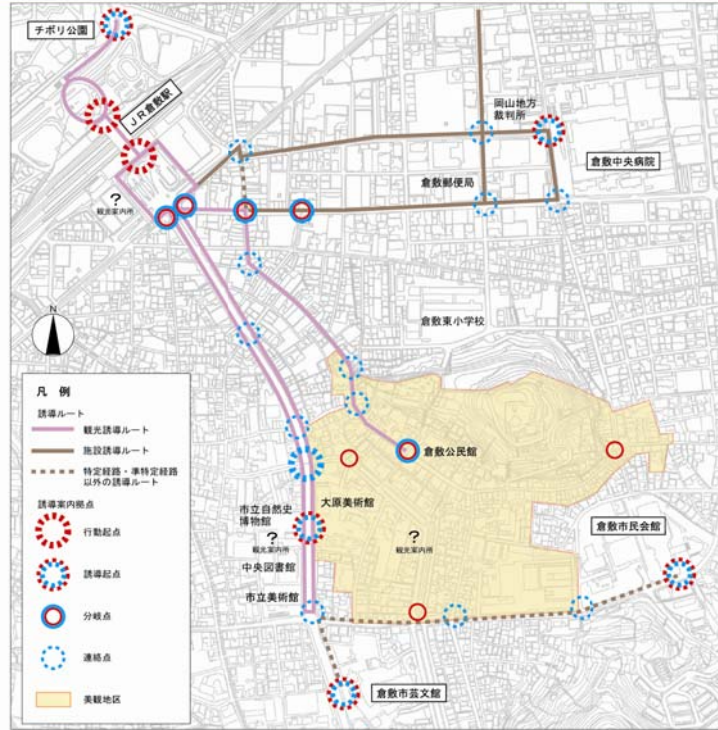
■案内誘導拠点の設定

誘導案内の拠点	設定する地点	設置するサイン
	行動起点：来訪者が移動を開始する地点（JR倉敷駅等） 誘導拠点：誘導の目的地	案内サイン及び誘導サイン
	分岐点 誘導ルート上の主要な交差点など、ルートが分岐する地点、誘導ルートが交差点で曲がる地点など	案内サイン 必要に応じて誘導サイン
	連絡点 誘導ルート上の交差点、またはルート上で一定以上の距離がある場合など、誘導案内が必要な地点	誘導サイン
	美観地区内案内サイン 美観地区内は誘導ルートを設定せず、案内サインによる情報提供の充実を目指します	案内サイン

■サインの機能

本計画で整備対象となる2つのサインは、基本的に次のような機能を担います。

- 案内サイン
利用者の現在地と、向いている方向を知るためのサイン。現在地と目的地との位置関係（目的地までの方向と大まかな距離）を把握できる機能を整備します。
- 誘導サイン
現在地が目的地までのルート上であることを確認するためのサイン。目的地までの方向と距離を確認する機能を整備します。



整備するサインとその機能

■施設デザインの考え方

- 倉敷のまちなみ景観に合うデザイン
- 連続性・統一性確保できるデザイン
- だれも見やすいシンプルなデザイン
- サインとして必要な「見つけやすい」デザイン
- 既存サイン施設をできるだけ活用したデザイン

既存サイン施設を活用した案内サイン施設

- 現在ある石造サイン施設を活かしたデザイン
市民に馴染まれてきた石造サインを取り込んだデザインとする

新設する場合の誘導サイン施設

- 不必要な装飾のないシンプルデザイン
視力障害者や高齢者が見やすい・見つけやすいシンプル形状と表示面とする
- サインとして必要な高さや視認性を確保したデザイン
誘導案内を必要とする歩行者が見つけやすい形状とする



■美観地区のサイン整備

原則的に、美観地区内での施設整備においては、景観法に基づく条例等によりデザイン面で強い制約があります。しかし、夜間照明や音声案内等、観光客のニーズやユニバーサルデザインに対応できる機能とするため、景観に配慮したデザイン・材質について関連機関等と十分調整を図ったうえで、美観地区にふさわしい施設デザインを決定するものとなります。